



SG13 議長 (新任)

国立研究開発法人情報通信研究機構

たにかわ かずのり
谷川 和法

〈プロフィール〉

専門領域: Ma マルチメディアシステムの研究開発、標準化

1987年 早稲田大学理工学研究科機械工学専攻修了

1987年 日本電気株式会社入社

2007年 FG-IPTV, SG13, SG16参加、IPTV端末技術標準に携わる

2021年 情報通信研究機構入構

2022年 ITU-T SG13議長就任 (現在に至る)

— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

谷川 「驚き」以外の何物でもありません。

— ご担当事項 (ご専門領域) とご経歴、ITU (SG) との係わり (年数など)、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

谷川 マルチメディアアプリケーション及びそのネットワーク (LAN、広域網、衛星通信等) の研究開発に携わっています。2000年頃のARIBでのデータ放送の標準化を手始めに、2007年からSG13及びSG16でIPTV端末及びネットワークの標準化、2012年からSG16でデジタルサイネージの標準化、2017年ごろからIMT-2020ネットワークのソフト化の標準化を担当してきました。

— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

谷川 AI、QKDN、コンピューティングとコミュニケーションの高密度結合、デジタルツイン等の多方面からの新技術の導入とURLLCやVR/AR等の新サービスで求められるエンド・ツー・エンドの品質保証実現の取組みが重要と考えています。

— 議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

谷川 SGでの活動に勢いがある反面、様々な運営上の課題 (活動テーマの類似性、標準化目標の曖昧性等) も顕在化してきています。効率的で効果的な審議の実現に向けて、ルールの見直しからSG活動の適正化を実施していきます。

— 議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

谷川 マルチステークホルダーが参加する会議での利害関係の調整は常に付きまとい、従前以上にシビアな状況になることも少なくなく、バランスの取れた議事運営が求められます。当たり前なことですが、当事者の声を親身に聞くことが重要だと思います。

— ポストコロナのSGの活動はようになっていくと思われませんか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

谷川 皆、バーチャル会合にも慣れてきたので、フィジカルとバーチャル会合をうまくミックスして標準化の活動サイクルを適正化していきたいと思えます。

— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

谷川 ICT全般にわたり新たな技術潮流が顕在化してきており、(個別技術の役割や期待が必ずしも明確ではない状況においても) 一度SGに話題を持ってきて専門家間で議論していただけると幸いです。SGは本来アカデミックな議論の場ではありませんが、今は時代の流れをつかむことがより重要ではないか、と感じています。

— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

谷川 何事も駄目だと分かるまであきらめない。

— 読者へのメッセージをお願いいたします。

谷川 SG13への積極的な参加をお願いいたします。まずは、(寄書活動の前に) 何が議論されているのかだけでものぞいていただけると幸いです。

【読者のための豆知識】

SG13の活動内容：将来網及び新興ネットワーク技術